2024 年 4 月 30 日

「進行期非小細胞肺癌患者の予後と入院期間についての調査研究」について

当科では下記の臨床研究を行っています。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。
本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で審査され病院長の承認を受けています。

＜研究の背景・意義＞

Ⅳ期の進行非小細胞肺癌は抗がん剤が標準治療です。近年免疫療法が標準治療の一つに加わり、現在の 1st line は化学療法と免疫療法の併用が標準治療となり予後改善が図られていますが、根治性はまだまだ乏しく予後は限定的です。肺癌患者さんは初診から終末期に至るまで検査、治療、症状緩和など様々な理由で入院を必要とすることがあります。入院やその期間の長期化は予後、生活の質、満足度、医療費に関係する可能性があり、緊急入院も患者さんにとって不利益と考えられます。予後が限られている肺癌患者さんにとって入院期間の長期化は避けるべき課題です。

ノルウェーの疫学調査で肺癌患者さんでは生存期間の 19%が入院で占められていましたが、2000 年以前のデータであり最近のデータはありません。肺癌に対する抗がん剤治療はチロシンキナーゼ阻害剤や免疫療法など様々な新規治療が導入されて予後は改善していると考えられていますが、肺癌患者さんの限られた生存期間の中で入院が占める割合やそれに寄与する因子はわかっていません。そこで本研究を計画しました。

＜研究の目的＞

化学療法＋免疫療法時代における肺癌患者さんの総入院期間、予後に占める割合、入院理由、入院に影響する因子に関して調査し、入院の原因などを明らかにすることで、入院期間の軽減をはかることができないか評価することが目的です。

＜研究責任者・研究組織＞

責任医師：京都桂病院　呼吸器センター呼吸器内科　副部長　祖開　暁彦

＜対象となる患者さん＞

2018 年１２月１日～2024 年４月 30 日の間に非小細胞肺癌Ⅳ期と診断もしくは疑われた患者さん

＜研究期間＞

2027 年４月 30 日までを予定しています。

＜研究の方法・使用する項目など＞

電子カルテを用いて後方視的に患者背景、診断、治療内容、合併症、入院期間、転帰などの情報を収集します。

2024 年 4 月 30 日

＜個人情報の取り扱い＞

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。また特定の個人を識別することができないよう、研究対象者に番号を付与したうえで、データを提出します。

＜研究成果の発表について＞

研究結果は学会や論文、ホームページ等で発表します。この際、患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

＜データ提供による利益と不利益＞

研究に参加されなくても今後の診療を受けるうえで不利益はありません。この研究は過去の診療録などの情報を用いた観察研究です。研究に参加された場合、患者さんに対して利益・不利益のどちらも発生することはありません。予定外の治療や検査、薬が追加されることもありません。

＜データ利用の拒否と中止＞

診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記問い合わせ先にお申し出ください。この研究から除外します。その場合でも今後の治療を受けるうえで一切の不利益はありません。

＜本研究の資金源（利益相反）＞

ありません。

＜問い合わせ先＞

本研究に関するご質問等がありましたら担当医師まで問い合わせ下さい。

問い合わせ先
京都桂病院
京都市西京区山田平尾町 17 番地
TEL：075-391-5811(代表)
責任医師：呼吸器センター呼吸器内科　副部長　祖開　暁彦